

広島市のめざすべき都市構造について

(「広島市都市計画マスタープラン(平成25年8月策定)」より抜粋)

1 都市構造の転換

市街地の無秩序な拡大を抑制し、公共交通にアクセスしやすい場所に居住機能、生活サービス機能などを集積する「集約型都市構造」への転換をめざします。

「集約型都市構造」とは、“市街地の無秩序な拡大を抑制し、公共交通にアクセスしやすい場所に、居住機能、医療・福祉等の生活サービス機能などを集積させる都市構造”であり、高齢者をはじめとする住民が過度に自家用車に頼ることなく生活できる都市をめざすものです。

2 集約型都市構造の構成

(1) 都心

広島駅周辺地区と紙屋町・八丁堀地区を都心の東西の核と位置付け、都市機能の集積・強化を図り、これらが相互に刺激し高め合う「楕円形の都心づくり」を進めます。

(2) 拠点地区

① 広域的な都市機能を担う拠点地区の形成(4地区)

中核となるべき機能の集積・強化などにより、活力と魅力のある拠点を形成します。

- 宇品・出島地区： 港湾・流通機能、交流拠点機能
- 井口・商工センター地区： 流通機能、商業機能
- 西風新都： 「住む」、「働く」、「学ぶ」、「憩う」、「護る」という都市機能
- 緑井地区： 広島インターチェンジと連携した商業機能、業務機能

② 地域的な都市機能を担う拠点地区の形成(8地区)

生活サービス機能の充実等により、地域の生活・活動を支える拠点を形成します。

- 〔西広島駅周辺、横川、古市、大町、高陽、可部、船越、五日市の各地区〕

(3) 交通体系

都心や拠点地区の連携強化により、各地区の機能分担と都市機能の有効活用が図られるよう、公共交通の充実・強化や骨格的な道路の整備に取り組みます。

